

平成27年9月17日

協議員会 会長挨拶

協議員会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

皆様には、日頃より全建の事業活動に深いご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。また、本日は、何かとお忙しいところを協議員会にご出席をいただきまして、重ねて御礼申し上げます。

本日は、ご来賓といたしまして、参議院議員の脇雅史先生、佐藤信秋先生、元・国土交通省技監である足立敏之氏に、ご多忙のところ、ご臨席いただいております。脇先生、佐藤先生には、常日頃から心のこもったご指導、ご支援を賜っておりますことに深く感謝申し上げますところでございます。また、足立氏には、国政の場でご活躍いただけるよう、全建を挙げて応援させていただいているところでございます。皆様どうぞよろしく願い申し上げます。

まず、今月10日以降、北関東・南東北を中心に発生した豪雨被害に関しまして、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。記録的な豪雨により鬼怒川の堤防が66年ぶりに決壊するなど甚大な被害となっており、現地で災害対応にあたられている建設業協会、会員企業の皆様の、地域の安全・安心を守る存在としての懸命な活動に敬意を表しますとともに、どうぞ安全第一で作業にあたってくださいますよう、お願いするところでございます。

さて、いよいよ10月7日の関東甲信越ブロックを皮切りに、全国9ブロックにおいて、平成27年度地域懇談会並びにブロック会議が開催されます。

去年は、品確法など担い手3法の改正への対応が大きなテーマとなり、全てのブロックにおいて活発な議論が展開されました。会議を通して、将来にわたって公共工事の品質を確保し、地域の安全・安心を守り続けていくためには、地域の建設業が適正な利潤を得て経営を安定化させ、将来の見通しをもって前向きに活動できる環境を整備することが重要であるという認識を、官民で共有できたように思います。改正品確法の運用指針を全ての発注者に浸透させるという取り組みは、歩切りの問題などでは一定の成果が上がってきておりますが、まだまだ、市町村等への運用指針の徹底が必要であると考えております。

また、今年度は、前年度並みの当初予算が確保されたものの、工事量は地域によってバラつきが大きく、「手持ち工事が無い」「利益が出ていない」という悲鳴が日増しに大きくなっているようにも感じられます。過去、公共投資が減少を続けた時代、建設業が将来の担い手確保・育成など考える余裕の無かった時代に、時計の針を戻すことのないよう、全建といたしましても、状況を注視しているところでございます。

皆様おかれましては、ご準備等でたいへんなお手間をおかけしているとは存じますが、地域懇談会並びにブロック会議は、国土交通省に地域建設業の生の声を届け、本音で議論することのできる貴重な機会でございます。どうぞ各都道府県協会におかれましては、各地域で抱える諸課題について、忌憚のないご意見を積極的にご発信いただきますようよろしくお願い申し上げます。

また、本日の協議員会終了後、増上寺におきまして、建設事業遂行のため不幸にも不慮の災禍に遭われ、殉職された方々への慰霊法要を執り行います。本年は新たに69柱の尊い御霊はしらを加えることになりました。これにより、昭和12年に全建が土木建築殉職者慰霊塔を建立して以来62,773柱はしらを合祀することとなりました。これを機会として、ご出席の皆様とともに労働災害防止への決意を新たにしたいと思っております。本日は、私が代表して事務局役職員を帯同し、土木建築殉職者慰霊塔の前で、御霊のご平安と工事の安全を祈願させていただくこととしておりますが、ご都合のつく方には是非ご参列いただければ幸いです。

結びになりますが、本日ご出席の皆様方のご健勝と各都道府県協会並びに会員企業益々のご隆盛・ご発展を祈念致しまして、ご挨拶とさせていただきます。

以上